

HAND in HAND

はんど・いん・はんど

〔仕事も子供もの結婚観〕

■月に1回、結婚講座を開いています。これから結婚しようという20代後半の男性たちにその家庭像を聞くと「3人くらい子供は欲しい」という人がかなり多い。中には5人でも6人でもという男性も。野球チームつくれるくらい、なんて言うのも確かに夢があって楽しい。でも、「そんな広い家に住める？教育費だってかかるし」と中年の私は意地悪く問い返します。

■高校進学率95%、さらに上へ進む子が多い現代「うちは子沢山。進学したかったら自力で行け」というのは余程の信念がなくては。それに2DKではくらはしてはいけません。一人の女が一生涯に産む子供の数が2人を割っているのは、何も女が子供嫌いになったわけではない。住宅・教育・経済事情が子沢山を許さないという現実があるからです。

■DINKSという言葉、ご存知ですか。Double Income No Kids。つまり、2人で働いて収入は2倍、子供はいらないという生活スタイルをとる人がアメリカでは増えているというのです。住宅事情はともかく、仕事を持つ女が家事育児の負担をほとんど一手にひき受け疲れ果てているのはいずこも同じ。子供がいないうがという気にもなるのでしょうか。

■でも私たち日本の女は、仕事も子供もと欲張っています。だから「3人は子供が欲しい」と言った男性たちにまた言いました。「しっかり夜中に起きてミルクをやり、離乳食も作ってね」と。講座の後、男性たちは「考えを変えないと結婚できないなあ」とつぶやいていましたが、ホント、毎年「妻が働くことに夫が協力的でない」という離婚理由が増えていること、世の男性たちにかみしめてもらいたいですね。
(円より子)

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。新たな旅立ちをした女たちはいま手をとりあい、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。

第80号 200円 禁無断転載

【発行日】1987年12月1日

【発行所】現代家族問題研究所
東京都渋谷区神宮前3-33-2-202

〒150 電話03 (402) 7354

【発行・編集人】円 より子

【編集スタッフ】

有賀佐知子・塩沢まや

80

「離婚なんて関係ないよ!」

健康的な子供たち

〈夏合宿の反省と今後のこと〉

夏に初めての試みとして、小学生の子供たちと研修合宿をしましたが、その時の参加者、村井美紀先生（日本社会事業大学）と内藤和美先生（国立小児病院）と円の三人で、反省会も兼ね、今後、「夫婦の問題と子供」ということで何か役立つことができるかという話し合いを持ちました。

両先生とも「社会の応援のない女たちが支えあって力強く生きようというエネルギーに感銘を受けた」として、「その子供たちと何らかの形でずっとつきあっていたい、お母さんたちや子供たちの相談相手として、身近なところに立っていたい」と言ってくれました。

そして今後のこととして、まず高校生・大学生・社会人となった子供たちに「親の離婚」について語ってもらう機会を持ちたいということになりました。それは、思春期をどう乗りこえるかというところがどの子供たちにも大きな問題ですが、特に両親の不仲や父親不在がどう関わってくるか、そしてそれが大きな影響となるなら、どう乗りこえればいいのか、これから思春期を迎える子供たちへアドバイスしていけると思うからです。

時間がかかると思いますが、少しずつ地道に勉強していきたいと考えています。協力してください。子供たちがいるといいのですが。

村井先生の合宿の感想から

「はつきりと
自己主張できる子供達」

子供の問題で非常に揺れているのは、親全部に共通する問題じゃないかと思います。その時にどういうふうに解決していくかという問題に関しては、働いているお母さんとか働いていないお母さんではなくて地域の中で、どういう社会環境を作りながら子供を育てていく—地域づくりの中で、我が子の問題をどうとらえるかという形で考えないと、生活している基盤の中で子供の問題をどうやっていったらいいかというのは解決しないと思います。その中で問題というのはいくつ少しか広がった輪の中で考えていかなければいけないと思います。

私は、前提としては、子供が離婚によっていろんな影響が出てくるのは問題ではなくて、あたり前

小二の男の子の絵。末永蒼生先生によると「ひとつの固まりを描くのは内向的。そして黄色だけで描いているが、黄色が多い時は絆をひきさかれたような時で、誰かに会いたいと思っている時が多い」



の感受性を持った子なら、あたりのことだと思ふんですよ。そういういろいろな環境の違いとか、今までと違ったことに適応しようとする過程では、いろんなリアクションが出てくるのがあたり前で、むしろ出してあげなければ、閉じ込めてしまったらどうなるかという方が私は心配です。「こういう問題があった、ああいう問題があった。だから子供にとって離婚は——」と語る立場に、たぶん私は立

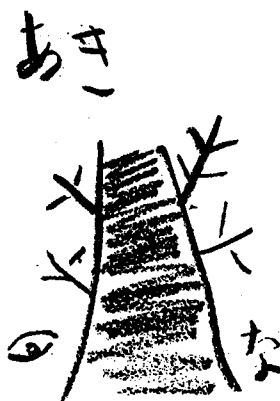
てないと思います。

むしろ、いろんな問題が出てきた時に、それにどのように対応したらいいかという形を、親子関係の中で、地域社会との関係の中であるいはそれを受け止める母親がどのような自分の存在を確認しているかという中で解決していくかという方向で考える、ということと、問題をとらえたいと思います。一人一人のお子さんが、問題行動を起こしたとか、適応ができなかったということの問題にするのではなくて、それは当然の問題であって、それをどういうふうに受け止めて、経過の中で成長の段階としてとらえて考えていったらいいかということを考えられればいいなと思います。

いろいろな問題は、個性はあるかと思いますが、両親の元で育っていない、だけではなくて、集団生活の中で育たなくては、いけない施設の子供の問題から、私の位置しているように、共働きという状況の中にかかえている問題から、専業主婦だという形で言われているお母さんまで、その幅広い問題の中でひとつの問題としてとらえる、というところえ方の

中で、どういう共通性があり、個性があるかというところが、関心のあるところです。

小二の女の子の絵。末永先生によれば「木の上が切れているような絵は望みなしの気持。母親が口出ししすぎることが多い。自由にどんどん描かせ、ストレスを発散させてやるべき」



今回、参加した子供たちに対しての感想は、とてもはつきりした自己主張をする子供たちだと思います。言葉の足りない子は態度で、態度で表し足りない子はたいたり、ひっかかりたりして。あれは大したもんだと思います。昨日、今日、会った大人に対して、ああいうふうに分の表現ができる子供は、すごく健康的だと思えました。

それから、まだまだこれから、もつとおつき合いが深まってく中で、私の理解も助けられるんだと思いますけれども、共通しているお母さん方の対応の仕方というのは、子供をひとつの人格としてきちんと認めながら話をしていくという点では、私の生活体験からくる保育園のお母さんたちと、少し違っているきわだった特徴かな、と感じているところです。もう少し皆さま方とおつき合いをさせていただく中で深まる問題であって、まだ今回だけではわかりかねるかなという気がします。

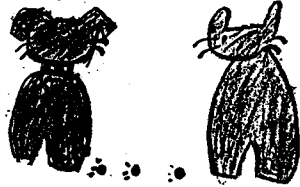
合宿のもち方に関しては、二日目の方がより本当の姿が出てきているけれども、一日目は、非常によいお子さんでした。今度、二泊三日にしてみました時に、もつと本性が出るのではないかと、楽しみにしています。

一泊二日でも、かなり冒険だったと思うんですが、一泊二日の中で出てきた部分は、二泊三日という生活体験の中で、もう少し出てくるかなあ…(と思います)。

私自身の希望を言えば、その中でお母さんと子供との関係がもう少し出てくるかなあと思います。

こうやって隣の部屋にいて、「終わり」と言った時の子供たちの表情とか、会った時、最初にお母さんが言葉をどうかけて、子供がどういうふうな感じでやるか、非常に楽しい、いい場面です。

すきなとらぶつ



小一の女の子の絵。ピンク系とブルー系のバランスがとれていて、明るく、エネルギーが調和。

お父さんがいないことがどういう問題かという話を、昨夜、談話室で皆さんがしている時に私はこんなにきちんとした生き方や主張をもっているお母さんたちがいる子供の幸せを、あの輪の中で、ずっと感じていたんです。やっぱりそこは、ひとつ寄って立つ子育てのいい条件じゃないかと思うんです。責任もありますけれどもね。(談)

☆来年の春合宿は四月二日(土)三日(日)です。

妻たちの思秋期

—これからの女と男—

十月三十一日、斉藤茂男氏を迎えて、第九〇回ニコニコ離婚講座が開かれました。斉藤氏の著書『妻たちの思秋期』（共同通信社）、『破局—現代の離婚』（ちくま文庫）など読まれた方も多いでしょう。

まず、前半でお話しされた「夫不在」の現況を、簡単にまとめてみますと――。

「夫と妻、男と女の関係が空疎なもの、心淋しいものになりつつある現在。その原因としては、ひとつには、高度成長期以後の経済的な構造の変化により、企業に夫を奪われてしまったことが挙げられる。そして、それを背景に、家族が共同体験ができなくなり、無理矢理思い出づくりを演出するという、寒々しい家庭の状況。そこに加わって、個人個人の人間形成の歴史からくる夫そのもの、人間そのものの変質。

仮に男性が家庭に存在したとしても、影のような存在になつていて、そこに妻が心を求めることができなくなっている。本当のあの

人はどこに在るの」と探す女たちの淋しさ、心の痛ましきは、五年前、『妻たちの思秋期』を書いた時と変わってはいず、更に深いものがあるように思えてならない」

そして、後半のお話へと続きます――。

こういう境遇の中で、離婚という問題が夫婦の間で持ち上がったくるのは必然的な成り行きだと思います。

離婚は、人生の転機として、大げさに言えば尊敬に値する行為じゃないか。真剣に離婚を考えることが、あまり為されなくなつてきている。それほど軽薄な時代になつてきている中で、とにかく離婚ということを考えること自体大変ですからね。しかも考えるだけで

なくて、ふみきつているエネルギーがあるとするれば、それは見上げたことじゃないか、と考えています。

しかし単にそれが、人から離れる、あるいは男性を取り換えるということにとどまつているだけでは、あまり意味がないんじゃないかと思ひます。やはり自分自身の人生の有り様そのものが、離婚ということを契機にして変革していかなければ、と思うんです。

もともと結婚というのは、一人でも生きられる自立した人間が、一人でも生きられるんだけれども、励まし合つたり、慰め合つたり、支え合つた方が生きやすいし、楽しいんじゃないの、という程度で生活を共にするのが、本来の有り様じゃないかと私は思うんです。ですから、結婚の大前提というのは、男も女もそれぞれ自立している、ということがなければいけないと思ひます。

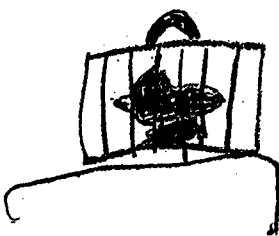
そういう点で考えてみますと、現代の日本の結婚は、かなり思惑外れがあるんじゃないか。相手に人生を預けていく、あるいは相手を自分の生きる道具とする、そういう意味で結婚を選ぶ場合があり

はしないか。

そういった角度で現代の結婚を見直して見た場合に、やはり根本的な問題として横たわっているのは、性別役割分業の問題だと思ひます。男は外で働き、女は内の子供を産み、育て、家事をやり、家庭円満にとりしきつていく、それが女の役割であり、女の幸せである、というのが、従来の意識と体制です。

日本の経済発展の有力な秘密兵器が、性別役割分業なんですね。男がひたすら生産活動に従事できる体制を、一軒一軒の家のの中に、安定的に維持してきたのが、その秘密だろうと考えるわけです。

経済発展のためには役にたつてきたわけですが、女性たちを内にとじこめてきた枠組が破綻しかけているのが、現代の特徴です。夫への献身、子育て以外に、もつと



Tちゃん（6歳女児）

創造的な人生、もつと生きがいのある人生があるんだということが女性たちにわかってしまった。しかも寿命が延びて、子育てが一段落したあと、四十年も四十五年もあるという長寿社会になってきた今では、自分のためにクリエイティブな人生をつかみとりたという欲求が高まるのは当然のことだと思います。

しかし現実には、なかなかそれがつかみとれない。そこでいろんな問題が起こってきて、アルコール依存症のような現象も表われてきました。なぜそういうふうになってしまいかと言え、やはり夫は依然として不在であるし、仮にパート労働で社会に参画したとしても、従来通り家事責任はほぼ100パーセント、女性にゆだねられている。老人介護の役割を果たしているのは90パーセントまで女性です。そういう現実がある以上、最近では女たちが家外になったと言いますが、依然として家内なんじゃないでしょうか。まだ十分に自分の人生を発見できていない。

生まれてくると思います。本質的に人間が労働するということは、生産的な価値を生むことと並行して、少しずつ自分自身を人間として成長させていくのが意味合いだと思ふんです。となると、男は学校を出たとたんに、そういう権利を手に入れているんです。大変恵まれているわけです。女の方はその権利を、さまざまな面で抑圧されているのが現状です。

そういう状況の中で、従来の役割に固定的に安定してしまわないで、男女が役割を持ち換えていく。男は家庭に参画し、家庭生活の面で役割を担っていく。女は社会に出て行って、社会参画をする役割を担っていく。そういう相互乗り入れ的な役割の組み換えによってお互いがお互いの体験を共有しあっていく。そのような役割の持ち合いが、女性の社会参加による自己育てを保障していく、ひとつの道筋だと思ふんです。



Tちゃん（6歳女児）

子供を産んだり、育てたり、家

族と親しみ合ったり、ということからくる人間としての喜び、これはもちろん手離すことのできない喜びだと思ふます。それと同時に、社会に参画しながら自分を育てていく喜びが、車の両輪のようにバランスよく回りはじめると、女性の本当の意味での自己実現の道が見えてくるでしょう。



もうひとつ重要なのは、男と女が同じ事柄を共通体験として持ち合うということの意義。例えば最近、出産に夫が立ち合うケースが少しずつ増えてきています。出産に立ち合った百組のカップルへのアンケートによると、86パーセントの夫が「妻を大事にするようになった」「女は偉い」「妻を前より愛せるようになった」と答えています。

こんなことからしても、ひとつの生命がこの世にオギャーと出てくるその瞬間を、夫と妻が一緒に共有する。そのことが、いかにお互いの人間理解を深め、敬愛感情を深いものにするかを、この例は言っていると思ふます。

性別役割分業をだんだん解体していって、役割を組み換えていく。

その中で、共通の体験を持つことによって、はじめて夫は妻を、妻は夫を、お互いに抑圧しないで、相手を生きるための道具にすることなく、相手の自立した生き方を尊重し合いながら励ましあって生きていく、そういう関係が生まれてくるのではないだろうか。その中でこそ、本当の愛が生まれてくる可能性があるんじゃないかと私は思ふます。

歴史的な経過の中で人間が作ってきた役割の体制、しくみが広範囲に広がっている日本的な社会の中で、今申し上げたようなことを実現していくことは、大変困難な事業ですから、ホイホイとできるわけはありません。が、そこにしか、これから男と女がいい関係で生きていく道はないんじゃないかと思ふます。

もしそうでないと、一体、何が起るのか？ 一番ひどい目に会うのは、子供ですね。問題児だと烙印を押されている子供を取材していると、問題は親にあるんですね。しかも夫と妻が、索漠とした関係にある。その時に母親が精神的に子供にしがみついてしまつて離せなかった、という事実が出てくる

わけです。

母親は、最も手近である子供に何とかして自分の空白を埋めてもらいたい。子供からいつまでも、期待されていた。そういうことが自立を疎外していく。やがて思春期に達した頃、自分の力で立ちたい、立てないの責めにあうんです。その矛盾を解決しようとするのが、殴つても絶対にはむかつてこない相手である母親に向かつて暴力をふるうという形で現われたのが、家庭内暴力です。非行も同じ根から発展しています。

あるいは、過食、節食といった食行動異常の背景にも、さまざまな自立疎外がひそんでいます。

離婚というのは、もしそれが母親にとって、自立への一歩という形で人生を選び出すひとつの行為であるとするならば、それは彼女にとってプラスであるだけじゃなくて、子供にとってもプラスになるんじゃないかと思うんです。



自分を抑圧しているものとして正面に表われているのは夫ですが、夫をそうさせている奥にあるものは何なのか、そこに目を見据える。あるいは、自分自身をそうさせて

いる構造は一体何なのか。自分たち夫婦がこうなつてしまった本当の原因は、単に会話が不得手だったということではないんじゃないか。もつと深い意味があるんじゃないか。そのへんにも目を見据えて人間の有り様の変革につながるような生き方を選びとっていく。

今申し上げたことに則して言えば、女性も社会に参加しながら、それを通じて、世直しをしていく。そういう生き方を選びとる中で、自立して生きていくことがもし実現していくならば、単に離婚がいいとか悪いということを超えて、世の中全体が、もつともつと人間らしい良い世の中になつていく、ひとつの歩みなんじゃないか、というふうに思います。

子供を置いて母親が別れるなんてことは、身をさかれるようにつらい思いをされることですが、この世の中を、もつと人間らしい世の中にしていくことが、一番大きなプレゼントになるのではないかと、私は考えています。



Mちゃん (5歳女児)

皆さんのアンケートに、たくさんさんの質問がありましたので、いよいよ今号から、竹川・松尾両弁護士に、お答えいただくことになりました。

Q

別居して約一年、今年の六月に正式離婚しましたが、別居した時長男は一〇ヶ月、父親のことは全く覚えておりません。もうすぐ二歳ですが、なんと説明したらよいか頭を痛めています。離婚のとき養育料の取り決めは公正証書でしたのですが、二ヶ月分程度で今月は入金がありません。

やはり、養育料をとるのは難しいのでしょうか。

A

父親のことを全く知らない子に離婚の事実をどう説明するか難しいところですね。子供はいずれその時がくれば、普通は父親がいるのに自分の家にはいないことを不思議に思い、その理由を聞くでしょう。その時はその子なりに理解できるように本当の事を話してあげられないと思います。

弁護士 110 番

私も離婚した当初、感受性の強い娘にどう話すか迷いましたが、案ずるより産むが易しで、正直に話したら比較的すんなり受け入れてくれました。子供がいちばん関心があるのは、両親は離婚したけれど自分自身はまだ生まれて生まれ、望まれて生まれたということに確信を持つことだといふことも娘を見ていて痛いほど判りました。

養育料の方も三ヶ月目から既に不払いでは長期のことですので心配ですね。でも今からあきらめるのも早すぎますよ。幸いにして公正証書を作成されていますので(勿論強制執行に服しても異議はない旨の条項はあるのでしょうか?)最終的には給料の差し押さえ等も可能ですから、もう少し様子をみて、不払いが続くようなら専門家に手続きを頼んだらよいと思います。でも、影響が大きいので、出来ればその前に電話でも請求してあげた方が親切でしょうね。

弁護士 竹川 幸子

(〇六―三六五―一六八〇)



第四一回 神奈川県・Kさん
家族構成

私 五九歳(パート)
長女 二七歳(会社員)
二女 二四歳(会社員)
住居 3LDKのマンション

離婚後三年八ヶ月。結婚生活の中で、張り合いのない家計簿から一転して、入る数字も、出てゆくお金も、すべて自分色に染められて、家族がまとまっていると、お金も生きる事が分りました。

収入は私のパートで六万、長女からの六万、二女からの五万の計十七万円。それに加え、夏、冬のボーナス時に娘たちが各十万円ずつ、年間計四〇万円を入れてくれ、これは固定資産税の一括払い八万円、私の衣料費などに当てています。

また「今月は時間外手当が多かったから、お母さんにも」と、娘

家計簿内訳

[収入]			
長二	女女	60,000	
		50,000	
私		60,000	
		170,000	
[支出]			
食費	費	55,000	
光熱	費	14,000	
積立	金	5,000	
電教	代	10,000	
マン	費	4,000	
MC	管理費	7,400	
火災	管理費	11,600	
予備	保険費	3,000	
私保	の	10,000	
健	衛生費	40,000	(含交際費)
生		10,000	
		計170,000	

たちが五千円くれる月もあります。昨年からの二女も社会人となり一安心です。我が家の家計簿は食費、小遣いの変動が毎月激しく、その点皆さまの参考には全くならないと思います。

娘たちは外食が多いので、食費はあまりかかりません。長女は社員食堂ですが、二女は週四日お弁当持参。私が作る事が好きな事もあります。娘がだんだん年老いて、立場が逆転した時の口封じに恩を売っておこうという、深謀遠慮も知らないで、毎朝、感謝感謝で持つてゆきます。

教養費は、新聞代とNHKの受信料です。

電話代は一万円で済まない事が多いので、娘たちをいましめる材料として、しばらく記録してみましたが、結局一番多いのは私のようでした。

以前住んでいた家を買ったお金で、たまたま紹介された、駅から五分、四階の東南角という好条件のマンションを購入しました。プラス二百万円の購入費でしたが、おかげさまでローンを組むことなく、したがって、毎月の住居費もゼロです。

年と共に友人との集まりが多くなり、時には一泊で出かけたりで、小遣いもこれで済まない事もあります。義理のおつきあいでのお費もあります。が、心のリフレッシュ、又本音で物を言ってくれる友人がいる幸せに感謝して、赤字の時は、予備費から出します。

三人でやっと得たお日さま一ぱいの平和の巣から、娘たちはやがて、それぞれの新しい人生に向かって、翺び立つてゆくと思います。その時、家計簿はどうなるか。

将来、家計簿収入欄に、夫〇〇円、と書く時が来るかも……、あり得ない事です。先の心配はしていません。

健康で、自分の生きる姿勢さえずさなければ、人生、なんとかなると思っっているのです。家計簿には載せられないけれど、恩師や友人という大きな財産が私にはあります。自分で自分を誉めたり、叱ったり、はげましたり、と、いろいろなサインを送りながら明るく生きてゆきたいと思います。

お若い皆さん、過去を振りむかず、後悔のないよう精一杯、生きてください。

ハンド・イン・ハンドは、みなさんがつくる雑誌です。

みなさんの日常考えていることや、生活の匂いが伝わってくるような、そんなハンド・イン・ハンドでありたいと思います。お便りをどんどんお寄せください。

外には見えない努力と配慮

大阪・ (三九歳)

面接交渉権のアンケートを郵送するか否か、ずいぶん迷いましたので遅くなりました。

私、離婚後地方職員の採用試験を受けて、ケースワーカーとして勤めておりますが、日頃業務の中で接触する母子家庭の実態に比べて、恵まれているというか、あまりにかけ離れていると思うので、もし、一つの例として取り上げられても問題となりうるのではないかと危惧した次第です。

数多い離婚の中には、いろいろなケースもあるとは思いますが、離婚によって、より多くの迷惑を受けるのは子供であり、女でありますので、やはり正確な情報の提供が最も必要です。離婚さえすれば、すべて解決するとか違う人生が開けるとか、離婚願望だけをふくらませるようなことがあつては心配しています。

私の場合も、このアンケートには表われないところで、現在の幸福を得るため、又は維持するため、に相当の努力をしていることは、御察知頂けると存じますが、一言つけ加えておきます。

では今後共、女が忍従だけを強いられるようなことがないように、女も強く賢く生きる為の支えとして頑張つて頂きますよう御願い申し上げます。

☆アンケートにご協力いただいてありがとうございます。この面接交渉権についてのアンケートは既に集計も終り、「離婚の子供レポート」(一五〇〇円・フジタ)と「ママ・笑つてごらん」(七二〇円・文藝春秋ネスコブック)に発表させていただきます。

その後の変化も知りたくて追加発送させていただいた一部です。ので、いづれ誌面でご報告いたします。

新生活のスタートです
神奈川県・ (二十八歳)

金木犀の香が、涙で季節が通りすぎてしまつていた私に、もう秋だよ、と教えてくれました。

結婚前から愛人がいた夫と、何ひとつ結婚らしい生活を送つたことのない私が、家裁の調停に離婚の申し立てをして六ヶ月すぎました。別れたいとはいふものの月収の三ヶ月分ほどを私へのすべての慰謝料とゆずらず、せめて分割でと言えば、無給医になるかもしれないなどと弁護士をたてては何ひとつ自分の口から言葉を発しない夫、すべて両親と弁護士と言うままで、離婚も自分とは別世界のこのような顔をしている夫。

幸い金住先生の御紹介で、私もとても良い弁護士さんについていただいて、少しずつ心の傷のいやし方や、女同志の話におつきあいいただいたりしております。

つくづく思うことは、世の中、男性に有利にできているということと、正しいということとは、その世の中で権利やお金や地位のある人間が決めていくということです。すぎてしまったことは仕方ありません。

せん。夫の愛人への憎しみをどうやってふりはらうたらいのか……。弁護士さんは、とりあえず好きな人を見つけて、とことん好きになつてみたら、なんて、そんなことを私に言いますが、何とか窓からさしこむお日様が、忘れさせてくれそうです。

鏡の前で、少しきれいになつたかなつて思っています。泣いてばかりいると、ブスになるばかりですから、愛の形、自分をみつめること、ゆつくり考えていきます。



一歩も前に進めません

東京都 M・K (三三歳)

夏休みに私と子供達が私の九州の実家へ帰つていると、主人から離婚するという手紙が来て、東京に戻つた八月二十五日、主人は荷物をまとめて出て行きました。今一カ月と少し過ぎ、もうそろそろ気持ちの準備をしなければと思いましたが、何も手につかず、我ながら自分の気持ちをもてあましています。六才になる長男と三才になる長女

と何事もなかったような、いつもながらの生活を送る日々をただ過ごしています。

何から考えればよいのでしょうか？ これからの事、そして今までの事、自分の気持、そして子供の事。

考えなければいけない事はたくさんあるのに一歩も進めません。

プライバシーについて

千葉県 M・S (三三歳)

会員名簿のアンケートの頁で、ハンドの会があくまでもプライバシーを守ることとやってこられたとありますが、最近プライバシーについて大きな疑問を持てしまったのです。

近くに住むハンド会員のKさんは、中心になってこの地域の連絡をとり、お互いに訪ねあつたりしている友人なのですが、どうしてもハンドの会ということで、各々プライバシーな事も何かと話し合い励まし合つてつきあつていました。たまたま私の知人とKさんが知り合いになったところ、Kさんはその知人に「あの人はご主人とこうなのだ。そしてそのいきさつは…」とか、「ご主人から相当な送金

があるのでやってゆけるのね」などと全てしゃべつてしまったのです。

私は憤りを感じました。

悪意ではなくても、少なくとも軽率ではないでしょうか。私はコソコソ隠すつもりはありませんが、主人と別居に至る経過を、広く全ての県民、或は国民の皆様にお知らせしたくありません。私の人生の苦しい出来事、そしてそれを乗り越えようと必死で生きてきたある一時期の事を、単なる退屈しのぎのサカナにされたようで、納得がいかないのです。

地域の方と交流を持つて、ハンドの会を発展させるのは素晴らしい事ですが、このような事があれば、今後、新しい会員の方もお誘い辛く、その方とは心をわつてお話しするという事も難しいです。ね。事務局の方はどのようにお考えでしょうか。そしてどうしたらその方に理解していただけるのでしょうか。会員の皆様にもお考え頂きたいと思っています。

☆(事務局から)千葉の連絡係以外でそうした会合のあること、全く知りませんでした。各地域できつと少しずつ輪が広がっているのですね。でも、それがこ

うしたプライバシー侵害になるのは残念ですが、事務局で管理することはできません。「私は他人に自分のことを話されたくない」とはつきり言い、他言しないことを確認しあつておくのはいかがでしょう。

自分の人生を!!

埼玉県 E・Y (四〇才)

福井市のKさん(七八号)、事務位しかできないと書いてありますが、私など中卒で二〇年主婦しかやってこなかった女が、これしかないと思えば何だつてできました。五〇万しかもらつて出なかったもので、一年間は生活保護をもらいました。市役所の人に「いざとなつたらトイレそうじでもしようと思つている」と言つたら「貴女は強くなつたね」と言われました。生まれ変わったのだと思つています。でも自分一人ではできなかったのではなく、多くの方々のおかげといつも手を合せています。

貴女は私よりも十歳もお若いではありませんか。がんばつて下さい。私から、ひとつのアドバイス。「後悔をしない生き方をして下さい」。

※事務局便り※

■先月、事務局への連絡に、会員番号・電話番号をお忘れなく書いたところ、この一ヶ月間に連絡して下さった多くの方が実行して下さいました。お願いついでにもうひとつ、当事務局財政困難、新しい年を迎える為にもぜひ、滞納されている購読料の入金お願いします。(S)

■銀座の伊東屋の入口に「Xマスカードが並ぶと、今年も終りだなあ」と思います。最近、遊び心いっぱいのおシャレなカードがたくさん売られています。「今年一年がんばつたね」の気持ちを込めて、自分自身に贈ってみませんか。(有賀)

■来年の企画、講師依頼等で忙しい日々です。二月から長期のカウンセラー養成講座と毎週水曜日の自己発見講座を開きます。十月はニコニコ離婚講座が〇〇〇回なので、何か楽しいことをとも考えています。アイデアお寄せください。(円)



十二月のニコニコ離婚講座は、お休みです。

会合のお知らせ

★東京の会合

十二月十九日(第三土曜日)
二時～四時

テーマは「子供に対する男の責任は？」森友義講師を迎えて皆さんで大いに語り合しましょう。その後、五時から七時位まで事務所の近くで忘年会をやります！会費は三千円位の予定です。電話で予約を。

☎〇三(四〇二) 七三五四

★横浜の会合

十二月五日(土)

忘年会をやります！午後六時に、京浜東北線根岸駅改札口に集合。川本宅にて、一品持ち寄り。会費二千円。予約や詳細は電話で。

★埼玉

大宮で初会合を開きます。

十二月十九日(土)午前十時～十二時。大宮ステーションビル5Fトップコートにて。
詳細は、電話で。

その他の連絡先



時事通信社
1300円

できたてのホヤホヤです。「離婚後のアタツチメントとアイデンティティ」のアンケート調査をようやくまとめることができました。全員にさしあげられればいいのですが、三〇冊をプレゼントします。ハガキまたは電話でお申し込み下さい。

振込通信欄から

☆六月二十九日、正式離婚しまして旧姓に戻りました。今、改姓の届けをいろいろ出しています。が、あまりの多さに改めて、結婚していた三年半の月日を思い知らされています。離婚の方は、満足できる条件ではなかったですが、離婚できただけでも幸せだと思っています。東京都・O☆いつも楽しみに届く日を楽しんでいます。離婚後も堂々と暮らしています。(卑屈にならずに)長男曰く「うちは母子家庭でないみたい」ですって！岐阜県・Z

購読料について



現在つぎの三通りの方法をとらせていただいています。

- ① 一年間三〇〇〇円(送料共)
- ② 二年間まとめて前払いしてください。二年前、六〇〇〇円のところを五〇〇〇円に。
- ③ 出世払いもしくは免除

どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出て下さい。それぞれ出費が大変でしょうが、期限切れの通知の入った方、またはこの折りにという方いずれもご都合のよい方法でどうぞ。(振込先)各地の郵便局
振込用紙は郵便局で無料でもらえます。

東京一四一二〇五四二
ハンド・イン・ハンドの会